

身地の市区町村などに直接、問い合わせるように学生課のホームページなどで注意を喚起している。

⑦「私費外国人留学生のための奨学金制度」

私費外国人留学生に対して、募集依頼のある奨学金制度は、次のとおりである。詳細については、それぞれのホームページを見るよう指導している。

- ・（財）日本国際教育協会・学習奨励費
- ・（財）ロータリー米山記念奨学会
- ・（財）平和中島財団外国人留学生奨学生
- ・（財）都築国際育英財団奨学金
- ・（財）サトウ国際奨学財団奨学生
- ・（財）朝鮮奨学会
- ・公益信託永井幸喜学術教育国際交流基金奨学生

点検・評価 長所と問題点

日本人学生については、日本育英会奨学金でほぼ希望を満たすことができている。外国人留学生については、中国人留学生が激増する傾向に比例して、経済的困窮による学費未納者が増え続けている。国の留学生に対する予算が削減されてきているなかで、このような留学生に対する取り扱いが課題となっている。

将来の改善・改革に向けた方策

留学生に対する国の予算の増額を望んでいるが、学生部を中心とした全学的な委員会の設置を視野に入れて、前向きに検討すべき課題だと認識している。

2 生活相談等

（１）学生の心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮の適切性

現状の説明

本学では、定期健康診断を毎年４月、全学生対象に実施している。定期健康診断は「学校保健法」に基づき学生の健康保持・増進のために行うものであり、検査の結果所見のある者に対しては、さらに精密検査の受診などの指示をあたえ、より早期に疾病の発見ができるよう努めている。定期健康診断を受診していない学生に対しては、必ず連絡をし、保健所または医療機関で受診させ、その診断結果を医務室に提出するよう指導している。

点検・評価 長所と問題点

昨年度から予備日を設け、学内で受診できる日を１日増やした結果、平成１４年度の受診率が９８％という好結果につながった。しかし、受診率をできるだけ１００％に近づけるためには、予備日をさらに増やすなどの工夫が必要である。特に結核については、学内での集団感染を未然に防ぐため、定期健康診断の全員受診を目

指すだけでなく、本学のホームページで「（財）結核予防会結核研究所のホームページ」を紹介するなどして、結核に対するさらなる理解と指導に努める必要がある。

また、性行為による感染症についても、結核と同じように病気を正しく理解させ、感染を予防する知識も身につけさせるため、関係サイトの紹介をしている。

将来の改善・改革に向けた方策

学生の健康保持および増進に関して、平成14年度から禁煙エリアの拡大を進めているが、将来は建物のなかには全て禁煙にすることも検討している。

（２）生活相談担当部署の活動上の有効性

現状の説明

医務室のなかに学生相談室（カウンセリングルーム）を設け、学生が入室しやすいように配慮している。カウンセラーは、週4日交替であり、専任（男性の教職課程助教授）と非常勤の女性を配置している。学生の予約については、電話も含め医務室の看護師も対応している。カウンセリングまでは必要ないが、女性の看護師に話を聞いてもらうことで、心を落ち着けようとして、医務室を訪れる学生も年々増えてきている。学生課では、そのような学生のために相談室の内の1室を提供し、リラックスできる場所を確保している。また、専任カウンセラーが「カウンセリングだより」を発行して、心身面でのアドバイスをしている。これはインターネット上からも閲覧可能になっている。

点検・評価 長所と問題点

医務室は、満足できる体制になっている。ただカウンセリングを希望する学生が微増傾向にあるため、現在の2人体制で対応できるかどうか、今後の課題として検討しなければならない。

将来の改善・改革に向けた方策

医務室長を中心として、カウンセリングも含めた現在の医務室体制が、十分に機能しているかどうか点検し、改善点があれば早急に実行に移す必要がある。

3 就職指導

（１）学生の進路選択に関わる指導の適切性

現状の説明

学生の進路選択に関わる指導に関し、1, 2年生に対しては、直接的な進路選択指導と言うよりは、社会に出て人と接していく上で重要となるコミュニケーション能力、多様な表現能力の育成に重点をおいている。1, 2年生は少人数のゼミ（基礎ゼミ：学生10名程度を1名の専任教員が担当）で、与えられた課題についての調査、発表、討論等を通して、コミュニケーション能力を養う。基礎ゼミはカリキュラム化され、その進め方は担当する教員にまかされている。